



Newsletter - Jewelry Artists of Japan. Vol.1

ジュエリー・アーティスト・ジャパン 通信



11月7日(水)、渋谷区文化センター大和田にて、ジュエリー・アーティスト・ジャパン (JA) の初回の勉強会が開催されました。この会は、若手のジュエリーアーティストやクリエイターのためのコミュニティである。若手の感性を取り入れ、日本の昔からの技法や感性も引き継ぎ、売れる商品を発信していこうという目的で始まった。4か月に1回程度の勉強会とフェイスブック上のグループでのコミュニケーションを図っている。初回は、工房フィーゴの坂元亜郎さんが、日本のジュエリーの歴史は、装剣金工師、飾り職人、そして西洋から入って来た技術により、独自に発達した事を解説。その後、職人の仕事への向かい方、心構え、ご自分の今までの仕事への経緯などをお話頂きました。



当日は、打ち出しの名品などを手に取って見ることもでき、かなり深い話しもあちらこちらで繰り広げられた。今回参加者は若者中心の19歳から60代まで。中堅の油が載っているクリエイターの方々の参加も多数、おかげで充実した勉強会となった。
(写真提供 Ian Chun)

ご興味の方は ジュエリー・アーティスト・ジャパン事務局
フェイスブックグループに申請
<http://www.facebook.com/groups/355478697849812/members/>
又は
シンコーストゥディオ (株) 米井・石までご連絡ください。
info@shinkostudio.com

小さな一歩がきっと大きな力になる

ジュエリー・アーティスト・ジャパン代表 米井 亜紀子

ジュエリー・アーティスト・ジャパンというコミュニティを立ち上げた。11月7日(水)開催の渋谷の文化センター大和田で初回の勉強会を開催。告知から開催まで1か月程度しか無いにもかかわらず、約30人の方々にご参加頂き感謝。

「ジュエリー・アーティスト・ジャパン」。未来のジュエリーアーティストやクリエイターを育てる。そして同時に、そういった若者のアイデアや活力を日本のジュエリーのデザインや製作に反映させて、物造りをしていくためのコミュニティである。

私が会社として設立して11年。その間に、幸運にも心ある方々に囲まれて本物を教えて頂いた様に思う。特に日本のジュエリーが江戸以前より続く、装剣金工師(刀の装飾を造る)・飾り職人(かんざし・帯留め・煙草入れなど)・西洋から来たジュエリーの技術の3つが融合して完成されたものだと知った。ジュエリー文化や技術は西洋から来たものと思っていた私には、かなり衝撃的な事実であり、日本の職人が造り上げた作品は、西洋のどのブランドにも劣らない技術と品格があることをしみじみと感じた。

ジュエリーというものの魅力は、何世代にも渡ってその家族が歩んできた道のりの想いを共有できる。お客様が求める物を造り、販売し、最終的に喜ばれる。そのためには、お金を出すお客様も販売する人間も、造る職人も皆、WinWinの関係が成り立たなければいけない。買う人が増えれば、造る側の職人も数をこなすことで、どんどん腕が上がりいい物を製作する事につながる。

いい仕事をして、それを正当に情報発信していかなければ、何も評価されずに朽ちていくのみだ。そんな、危機感。それが今回、「ジュエリー・アーティスト・ジャパン」を立ち上げにつながった。私は、職人でも、デザイナーでも、恐らく販売に長けているわけでも無いが、世界に類を見ないこだわりの職人達、漫画文化と日本の新しい美的感覚の中に育って来た若者達、そして日本の伝統。この中に金の脈があるように思えるのは私だけなのでしょうが。小さな一歩ではあるが、きっと大きな力になる、そんな期待が心をよぎる初回の勉強会でした。